

第5章 音楽

1 中学校音楽科の内容のまとめ

中学校音楽科における内容のまとめは、以下のようになっている。

〔第1学年〕

「A表現」(1)歌唱の活動 及び 〔共通事項〕(1)

「A表現」(2)器楽の活動 及び 〔共通事項〕(1)

「A表現」(3)創作の活動 及び 〔共通事項〕(1)

「B鑑賞」(1)鑑賞の活動 及び 〔共通事項〕(1)

〔第2学年及び第3学年〕

「A表現」(1)歌唱の活動 及び 〔共通事項〕(1)

「A表現」(2)器楽の活動 及び 〔共通事項〕(1)

「A表現」(3)創作の活動 及び 〔共通事項〕(1)

「B鑑賞」(1)鑑賞の活動 及び 〔共通事項〕(1)

2 中学校音楽科における「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順

ここでは、第1学年「A表現」(1)歌唱の活動 及び〔共通事項〕(1)、第2学年及び第3学年「B鑑賞」(1)鑑賞の活動 及び〔共通事項〕(1)を取り上げて、「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順を説明する。

まず、学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解する。その上で、①及び②の手順を踏む。

<例1 第1学年「A表現」(1)歌唱の活動 及び〔共通事項〕(1)>

【中学校学習指導要領 第2章 第5節 音楽「第1 目標」】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

(中学校学習指導要領 P. 99)

【改善等通知 別紙4 音楽(1) 評価の観点及びその趣旨 <中学校 音楽>】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。(※1) 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。(※2)	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(改善等通知 別紙4 P. 14)

※ 「知識・技能」の観点の趣旨は、知識の習得に関すること(※1)と技能の習得に関すること(※2)とに分けて示している。これは、学習指導要領の指導事項を、知識に関する資質・能力(事項イ)と技能に関する資質・能力(事項ウ)とに分けて示していること、技能に関する資質・能力を

「A表現」のみに示していること等を踏まえたものである。また、「A表現」の題材の指導に当たっては、「知識」と「技能」の評価場面や評価方法が異なることが考えられる。したがって、「A表現」の題材では、評価規準の作成においても「知識」と「技能」とに分けて設定することを原則とする。なお「B鑑賞」の題材では、※2の趣旨に対応する評価規準は設定しない。

【中学校学習指導要領 第2章 第5節 音楽「第2 各学年の目標及び内容」〔第1学年〕1 目標】

(1)	(2)	(3)
曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。	音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

(中学校学習指導要領 P. 99)

【改善等通知 別紙4 音楽（2）学年別の評価の観点の趣旨 <中学校 音楽>第1学年】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(改善等通知 別紙4 P. 15)

① 各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

A表現

(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり

(イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能

(イ) 創意工夫を生かし，全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて，音楽における働きと関わらせて理解すること。

(下線)…知識及び技能に関する内容

(波線)…思考力，判断力，表現力等に関する内容

<参考：〔共通事項〕について>

○「内容のまとまり」と〔共通事項〕との関係

- 〔共通事項〕アは，思考力，判断力，表現力等に関する内容を示しており，〔共通事項〕アと各領域や分野の事項アは，一体的に捉えるべき内容である。

歌唱	器楽	創作	鑑賞
音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え⇒			
⇒歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，歌唱表現を創意工夫すること。	⇒器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，器楽表現を創意工夫すること。	⇒創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，創作表現を創意工夫すること。	⇒鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，次の(ア)から(ウ)までについて自分なりに考え，音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

このように、〔共通事項〕アは、歌唱、器楽、創作、鑑賞の全ての事項アの文頭に位置付く性格のものである。

- ・ 〔共通事項〕イは、知識に関する内容を示しており、全ての「内容のまとまり」において、その趣旨を踏まえて適切に指導すべき内容である。

○評価規準作成の際の〔共通事項〕の位置付け

- ・ 〔共通事項〕については、配慮事項に『A表現』及び『B鑑賞』の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫すること」と示しており、また「中学校学習指導要領解説音楽編」において、「〔共通事項〕は、従前同様、表現及び鑑賞の活動と切り離して単独で指導するものではないことに、十分留意する必要がある。」と示している。これらを踏まえ、事項アについては、全ての題材で必ず位置付けなければ学習として成立しないため、「思考・判断・表現」の観点の趣旨の中に位置付けている。

一方、事項イについては、「知識」の観点の趣旨に直接的には示していない。事項イの内容については、「音楽における働きと関わらせて理解すること」と示しており、主に「曲想と音楽の構造との関わり」について理解する過程や結果において理解されるものである。

<参考：音楽科における事項の示し方>

A 表現

(1) 歌唱の活動

ア 思考力、判断力、表現力等に関する内容

イ 知識に関する内容

ウ 技能に関する内容

(2) 器楽の活動

ア 思考力、判断力、表現力等に関する内容

イ 知識に関する内容

ウ 技能に関する内容

(3) 創作の活動

ア 思考力、判断力、表現力等に関する内容

イ 知識に関する内容

ウ 技能に関する内容

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動

ア 思考力、判断力、表現力等に関する内容

イ 知識に関する内容

〔共通事項〕

ア 思考力、判断力、表現力等に関する内容

イ 知識に関する内容

② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

(1) 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

- ・ 事項イ及び事項ウの「次の(ア)及び(イ)」の部分に、学習内容等に応じて(ア)、(イ)のいずれか又は両方を適切に選択して置き換え、文末を「～している」に変更する。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・ 「[共通事項] アの文末を「考え,」に変更して文頭に置き、事項アの文末を「～している」に変更する。なお、事項アの前半の「知識や技能を得たり生かしたりしながら」は、「知識及び技能」と「思考力, 判断力, 表現力等」とがどのような関係にあるかを明確にするために示している文言であるため、内容のまとまりごとの評価規準としては設定しない。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・ 当該学年の「評価の観点の趣旨」に基づいて作成する。
- ・ 「音や音楽, 音楽文化に親しむことができるよう」は、「主体的に学習に取り組む態度」における音楽科の学習の目指す方向性を示している文言であるため、内容のまとまりごとの評価規準としては設定しない。
- ・ 「表現及び鑑賞」の部分は、学習内容に応じて、該当する領域や分野に置き換える。なお、「学習活動」とは、その題材における「知識及び技能」の習得や「思考力, 判断力, 表現力等」の育成に係る学習活動全体を指している。
- ・ 「楽しみながら」は、「主体的・協働的に」に係る文言であり、「楽しみながら取り組んでいるか」を評価するものではない。あくまで、主体的・協働的に取り組む際に「楽しみながら」取り組めるように指導を工夫する必要があることを示唆しているものである。

<参考：第1学年「A表現」>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(事項イの(ア), (イ))について理解 <u>している</u> 。【知識】 (事項ウの(ア), (イ))を身に付 <u>けている</u> 。【技能】	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それら働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて <u>考え</u> , 歌唱(※「A表現・器楽」の場合は「器楽」, 「A表現・創作」の場合は「創作」)表現を <u>創意工夫している</u> 。	音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に <u>歌唱</u> (※「A表現・器楽」の場合は「器楽」, 「A表現・創作」の場合は「創作」)の学習活動に取り組もうとしている。

（２）学習指導要領の「２ 内容」及び「内容のまとめりと評価規準（例）」

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり (イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり 〔共通事項〕 イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。 ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能	ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。 〔共通事項〕 ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考えること。	※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、該当学年の目標(3)を参考にする。

学習指導要領
２
内容

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりごとの評価規 準 例	・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ・声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声，言葉の発音，身体の使用方などの技能を身に付けている。 ・創意工夫を生かし，全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，歌唱表現を創意工夫している。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 ※必要に応じて学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。

＜例 2 第 2 学年及び第 3 学年「B 鑑賞」(1)鑑賞の活動 及び〔共通事項〕(1)＞

【中学校学習指導要領 第 2 章 第 5 節 音楽「第 1 目標」】及び【改善等通知 別紙 4 音楽（1）
評価の観点及びその趣旨 ＜中学校 音楽＞】

＜例 1 と同様＞

【中学校学習指導要領 第 2 章 第 5 節 音楽「第 2 各学年の目標及び内容」

〔第 2 学年及び第 3 学年〕 1 目標】

〔第 2 学年及び第 3 学年〕

(1)	(2)	(3)
曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

（中学校学習指導要領 P. 101）

【改善等通知 別紙 4 音楽（2）学年別の評価の観 points の趣旨

＜中学校 音楽＞第 2 学年及び第 3 学年】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

（改善等通知 別紙 4 P. 15）

① 各教科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。

B鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠

(イ) 生活や社会における音楽の意味や役割

(ウ) 音楽表現の共通性や固有性

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

(イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり

(ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。

(下線)…知識及び技能に関する内容

(波線)…思考力、判断力、表現力等に関する内容

＜参考：〔共通事項〕について＞は、＜例1＞と同様

② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

(1) 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

- ・ 事項イの「次の(ア)から(ウ)まで」の部分に、学習内容等に応じて(ア)、(イ)、(ウ)から一つ以上を適切に選択して置き換え、文末を「～している」に変更する。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・ [共通事項] アの文末を「考えるとともに,」に変更して文頭に置き、事項アの「次の(ア)から(ウ)まで」の部分に、学習内容等に応じて(ア)、(イ)、(ウ)から一つ以上を適切に選択して置き換え、文末を「～している」に変更する。なお、事項アの前半の「知識を得たり生かしたりしながら」は、「知識」と「思考力、判断力、表現力等」とがどのような関係にあるかを明確にするために示している文言であるため、内容のまとまりごとの評価規準としては設定しない。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

<例1と同様>

<参考：第2学年及び第3学年「B鑑賞」>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(事項イの(ア)、(イ)、(ウ))について理解している。【知識】 (「技能」に関する評価規準は設定しない。)	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて <u>考えるとともに, (事項アの(ア)、(イ)、(ウ))</u> について考え、音楽のよさや美しさを味わって <u>聴いている</u> 。	音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(2) 学習指導要領の「2 内容」及び「内容のまとまりごとの評価規準（例）」

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習指導要領 2 内容	イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史, 他の芸術との関わり (ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と, その特徴から生まれる音楽の多様性 〔共通事項〕 イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて, 音楽における働きと関わらせて理解すること。	ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら, 次の(ア)から(ウ)までについて考え, 音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。 (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠 (イ) 生活や社会における音楽の意味や役割 (ウ) 音楽表現の共通性や固有性 〔共通事項〕 ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。	※内容には, 学びに向かう力, 人間性等について示されていないことから, 該当学年の目標(3)を参考にする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準 例	・曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史, 他の芸術との関わりについて理解している。 ・我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と, その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。	・<u>音楽を形づくっている要素を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに,</u> 曲や演奏に対する評価とその根拠について考え, 音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 ・(上記下線部と同様), 生活や社会における音楽の意味や役割について考え, 音	・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ※必要に応じて学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。

		楽のよさや美しさを味わって聴いている。 ・（上記下線部と同様），音楽表現の共通性や固有性について考え，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	
--	--	---	--